

第207回 全経簿記検定試験 上級 一 会計学一

模範解答

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

問題 1 [予想配点：各⑤点，合計 50 点]

	正誤	理 由
1.	○	
2.	×	流動・固定の分類は、 <u>まず正常営業循環基準を適用し、その後に1年基準を適用する。</u>
3.	×	資産除去債務には、法令又は契約で要求される法律上の義務及び <u>それに準ずるものも含まれる。</u>
4.	×	同一環境下で行われた同一の性質の取引等について、 <u>親会社の子会社が採用する会計方針に合わせる場合もある。</u>
5.	×	会計方針とは、財務諸表の科目分類、科目配列及び報告形式の <u>表示方法は含まれない。</u>
6.	○	
7.	○	
8.	○	
9.	○	
10.	×	関連会社に該当しなくなった場合には、連結財務諸表上、残存する被投資会社に対する投資は、 <u>個別貸借対照表上の帳簿価額をもって評価する。</u>

問題 2 [予想配点：合計 26 点]

問 1 [予想配点：選択 3 点，説明各 3 点，小計 12 点]

債務概念	「基準」の概念	債務概念の認識範囲の説明
予測給付債務概念	○	受給権が確定したものに未確定の受給権を加え，さらに将来の昇給部分を加えた退職給付金額を算定する。
累積給付債務概念		受給権が確定したもののみならず，未確定の受給権のうち期末までに発生し退職給付金額を算定し，昇給部分は含めない。
確定給付債務概念		受給権の確定した従業員への退職給付金額のみを算定し，昇給部分は含めない。

問 2 [予想配点：：丸数字は配点を示す，小計 14 点]

(1) 連結財務諸表	<p>当期の費用処理額は当期純利益を構成し，<u>未認識数理計算上の差異は税効果を調整した上で，その他の包括利益を通じて純資産の部に計上する。</u></p> <p>つまり，数理計算上の差異を<u>即時認識</u>する。 ③</p>
(2) 個別財務諸表	<p>各期の発生額について，<u>平均残存勤務期間以内の一定の年数で按分した額を每期費用処理する。</u>つまり，数理計算上の差異を<u>遅延認識</u>する。 ⑥</p>

問題 3 [予想配点：丸数字は配点を示す，合計 24 点]

問 1

<p>取得に関する付随費用は，<u>株主との間の資本取引ではなく，会社の業績に関する項目</u>として考えられるため，自己株式の取得原価に含めない。 ③</p>
--

問 2

(1)	<p><u>自己株式処分差益はその他資本剰余金に計上し，自己株式処分差損はその他資本剰余金から減額</u>する。 ③</p>
(2)	<p>自己株式の<u>処分は，新株の発行と同様の経済的実態を有し，処分差額も払込資本と同様の経済的実態を有するため</u>資本剰余金とすべきであり，<u>資本準備金は会社法で規定されているため，その他資本剰余金とする。</u> ③</p>